

ふれあい

TASHIRODAI



日本医療機能評価機構認定病院

医療法人社団
豊美会

田代台病院・精神科・神経内科・内科

発行責任者：院長 中邑義継 〒754-0122 山口県美祢市美東町真名2941番地 TEL 08396-5-0301 FAX 08396-5-0861

病院理念

心や生活機能に障害をかかえるお年寄りの治療の為に、職員一同が、家族や地域の方々と連携しながら、医療、看護、介護や啓蒙を総合的に提供していきます。

看護理念

「和」の精神のもと、患者・家族・地域の皆様の期待に応えられる看護を提供します。

日本医療機能評価機構
認定第 JC1735 号

田代台病院は、よりよい医療を提供していくために、日本医療機能評価機構の認定を取得しています。

地域広報誌「ふれあい」創刊にあたって



院長 中邑 義継

当院は1980年8月に認知症を主とする老年期の精神疾患を治療対象とした精神科病院として開院しました。以来、ミニフォーラム、夏祭り、中学高校生の職場体験や実習などを通して、次第に認知して頂き、今年で33周年を迎えました。

当院にはこれまで院内情報誌はありましたが、外部への情報発信は不十分で口コミ主体となっておりました。そこでこのたび、田代台病院地域広報誌「ふれあい」を創刊することに致しました。この広報誌から地域や関係機関の方々に当院をさらに認知して頂き、認知症や高齢期精神障害に関する有用な情報を提供していきたいと存じます。地域広報誌「ふれあい」を通して、地域や関係機関との連携を今まで以上に強化できれば幸いです。

また、田代台病院の紹介だけでなく、認知症や高齢期の精神保健に関する情報も分かりやすく、楽しく読める誌面にもしたいと考えておりますので、今後の情報内容にご期待下さい。医療に関わる情報は勿論、人的情報、地域情報、院内外の勉強会トピックスなどを分かりやすく掲載し、互いに親しく情報を分かち合いたいと思います。この地域広報誌の内容に対する気付きやご意見がありましたら、どうぞお教え下さい。ご意見が活かされる田代台病院でありたいと思います。愛読者が大勢出来る地域広報誌にして参りますので、期待も含めて、宜しくお願い致します。

田代台病院は、 こんな病院です。

田代台病院は、心や生活機能に障害を抱える

お年寄りの方々のための病院です。

田代台病院が設立されたのは、1980年（昭和55年）、やっと特別養護老人ホームが県内各地にポツポツ出来始めた頃でした。その当時はまだ高齢化が今のように注目される時代ではありませんでしたが、特別養護老人ホームに入所されていたお年寄りの方々の姿を目の当りにし、「日本はこれからお年寄りがどんどん増えていく。このままでは認知症の方（当時は、まだ、ぼけ老人とか痴呆とか呼ばれていました）を治療したり看てもらえる施設や病院がなくてみんなが困る時代がきっとやってくる。この方たちの居場所を造ろう。」との考えを共有した人たちの熱意から、当時ではめずらしい認知症専門の精神科病院として田代台病院は設立されました。



以来33年、この思いは、今も変わらず、病院理念として受け継がれ、実践しています。

田代台病院は、認知症ケアに力を入れています。

田代台病院には、医師、看護職員だけでなく、作業療法士、精神保健福祉士、介護福祉士など多職種の職員が集まって、認知症について理解を深めながら、より良いケアの方法を研究し、病院全体のケアの質の向上を図っている勉強会があります。名称は、精神科看護介護勉強会・認知症部会、通称、認知症部会と呼ばれています。この部会でこの夏、これまでの成果を職員教育のテキストとして使えるように纏めた「認知症ケアマニュアル」を作成し、全職員に配布しました。また、マニュアルの中に取り上げられている、例えば「服を上手に着れない方の着替え」など認知症高齢者のケアの難しい場面を職員自らが演じたDVDを作成し、みんなで見ながらディスカッションしたり、研修の教材とし活用しています。今後は、もっと様々な場面での適切なケア・不適切なケアのDVDを作成し、たくさんの方に見ていただき、認知症ケアの勉強に使ってもらえるようになればいいなと考えています。そんなわけで、認知症部会は、ケアの勉強だけでなく、演技の勉強にも力を入れて頑張っています!(^)!。

デイ・ケア「なごみ」は、在宅生活の強力なサポーターです。

十文字ICから田代台病院に向かうと真正面に見えてくる赤い石州瓦の建物が、通院治療を目的とした通所施設、重度認知症患者デイ・ケア「なごみ」です。「なごみ」では、物忘れや日常生活が困難な認知症高齢者の方に、作業療法を通して、一日一日がその人らしく生き生きと過ごしていただける場所を提供し、日常生活のリズムを整え、認知症の進行を予防するためのサポートをしています。医師、作業療法士、看護師が常駐しており、在宅生活の維持に向けて治療にあたっています。



また、ご家族の方にも精神保健福祉士が、利用者の方の日常生活でお困りのことや介護の相談にのり、共に笑顔で楽しく穏やかな日々が過ごせるようにお手伝いさせていただいています。

「ミニ・フォーラム in なごみ」を、毎年開催しています。



なごみを会場として、毎年、認知症に関連したテーマを選定し、「ミニ・フォーラム in なごみ」と題したフォーラムを開催しています。病院のある美祢市だけでなく山口市・宇部市などから毎年会場が満席になるほどの方々にご参加いただいています。

8回目となった今年は、6月に広島県在住の絵本作家、岡上多寿子さんに「いっぱいごめん、いっぱいありがとう」と題してお話いただきました。認知症の母の介護経験談に参加

加者は時に笑い、時に涙しながら、引き込まれ、本当に素晴らしい時間を持つことができました。参加されなかった方も、是非、岡上多寿子さんの本を読んでみてくだ

さい。岡上ワールドにきっと引き込まれますよ。ミニ・フォーラムは、来年も同時期に開催の予定です。まだ、詳細は決定していませんが、どうぞご期待下さい。

皆さまのお越しをお待ちしております。



認知症 ケアのポイント

今年の厚労省研究班の調査によると、65歳以上の高齢者の15%にあたる462万人が認知症であるという実態が明らかになりました。これは4人に1人が65歳以上の高齢社会を迎えるなか、認知症も私達にとって身近な問題となっています。認知症は脳の老化で記憶力や判断力が衰えていく状態をいいます。また、その原因となる病気によって様々な特徴があり、ケアのポイントも変わってきます。しかし、共通して言えるのは認知症の人は「できないことやわからないことに不安を感じ、現実とのギャップに戸惑いを感じていること」が行動に現れるということです。また、認知症の人は認知機能は衰えても感情はいつまでも残ると言われています。適切なケアの関わり方で認知症の症状も変わっていきます。このコーナーでは認知症を正しく理解していただき、認知症の人が安心して穏やかに過ごせるように、次回より「認知症ケアの基本」について連載してまいります。

看護部長 山本 恵子

デイ・ケア なごみ通信

「畑づくり」



このコーナーでは、デイ・ケア「なごみ」で行なっている様々な活動や行事、出来事などを紹介していきたいと思えます。

記念すべき第1回目は、利用者の皆さんに人気の「畑づくり」の活動です。「なごみ」には専用の畑があり、時期に応じた野菜や花などを育てています。地域柄、利用者の皆さんは畑仕事の大先輩ばかり。自前の手ぬぐいを頭に巻いたり、ズボンの裾をまくったり、中には「鍬はないかの？」と鍬を持って畑を耕す元気な方もいらっしゃいます。職員はすっかり生徒となって教わりながら、皆で楽しく畑づくりを行っています。



写真は白菜の漬物を作っている所ですが、収穫した野菜などは実際に調理して食べ、秋には病院と合同で栽培したさつまいもを競う「お芋コンテスト」や「収穫祭」などの行事も実施しています。

デイ・ケア「なごみ」室長 岡崎 佳子

編集 後記

地域広報誌「ふれあい」創刊号はいかがでしたか？本誌では皆さまからのご意見ご要望をお待ちしております。「こんなことを取り上げて欲しい」「ここがもっと知りたい」などございましたらぜひお知らせ下さい。今後もご愛読のほど、よろしくお願い致します。

担当：地域広報誌編集委員会 山本/土肥